

希少植物(絶滅危惧種)

イヌゴマ(犬胡麻)



湿地に生えるシソ科の多年草。実がゴマに似ていますが、食用にならず役に立たないことからイヌゴマと命名されています。別名はチヨロギダマシ 花期8月～9月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ウマスゲ(馬菅)



陽当たりの良い湿地に生育するカヤツリグサ科の多年草。たくて長い地下茎を持ち、果胞や小穂が大きいのが特徴です。見頃4月～6月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

オニナルコスゲ(鬼鳴子菅)



カヤツリグサ科の多年草 和名の由来は、細い柄から垂れ下がった果穂が大きな鳴子のように見えることから。花期5月～7月。宮崎県絶滅危惧ⅠA類

キタガワヒルムシロ(北川蜷蒔)



家田川の上流から下流にかけて無数に群生。平成12年に国内の水草研究第一人者の角野氏(神戸大学)が新種と判断したもの。6月頃に水面に茎を出して開花、結実します。宮崎県絶滅危惧ⅠB類

ゴキツル(合器蔓)



ウリ科の一年生のつる植物。本州・四国・九州に分布。合器はふたのついたお椀の意味。果実が熟すと上下にふたを開けるように真中から割れて種が出てきます。見頃8月～11月 宮崎県準絶滅危惧

サイコクヌカボ(西国糠穂)



明るい湿地に生育するタテ科の一年草。葉にV字の模様があるのが特徴。家田川上流や川坂地区の休耕田に生育。見頃8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

セキショウモ(石蓴藻)



湖沼やため池、比較的きれいな小川の流水中に群生する沈水性の多年草。葉がサトイモ科のセキショウに似ていることから和名が付けられました。見頃7月～10月 宮崎県準絶滅危惧

ナガエミクリ(長柄実栗)



ミクリ科の多年生草本。湖沼・ため池・河川・水路などに生育。花や果実の集まった姿が、栗のイガに似ているため「ミクリ(実栗)」と呼ばれています。見頃7月～10月 宮崎県準絶滅危惧 環境省準絶滅危惧